

TBSの動画コンテンツ流通促進に関する取組み ～動画配信サービス「TBSオンデマンド」「News i」の事例を中心に～

(株)TBSテレビ

デジタル放送企画室長 井川泉
メディアビジネス局 TBSオンデマンド事業戦略統括 高澤宏昌

はじめに



TBSテレビは1999年に「News i」を通じ、いち早く動画ニュースの無料配信を開始し、また、エンターテインメントコンテンツに関しては「トレソーラ」の取り組みを経て「TBS オンデマンド」にて、有料動画配信に積極的に取り組んでまいりました。

以下、それぞれのサービスのご説明を通じ、
動画コンテンツ流通へのTBSの取り組みの現状及び将来についてご報告致します。

TBSの有料動画配信サービス 「TBSオンデマンド」 事業概要

TBSオンデマンドとは？



「TBSオンデマンド」は、TBSが運営する有料動画配信サービスです。ドラマ・映画・アニメ・音楽などTBSが持つさまざまなジャンルの人気番組ばかりを配信しています。
<http://tod.tbs.co.jp/>



TBS 動画配信事業の歩み 「トレソーラ」「TBS BooBo BOX」等



- 2001年9月・・・ブロードバンド事業検討社内プロジェクト「プロジェクトBB」発足
- 2001年12月・・・『猪木軍vsK - 1最強軍』 有料配信実験(自社サイト)
* 権利処理、配信・課金委託事業者との契約などを体感
- 2002年1月・・・フジテレビ・テレビ朝日と共同で株式会社トレソーラ設立 2002年秋・2004年春、2回の実証実験を実施
- 2005年11月・・・有料動画配信サービス「TBS BooBo BOX」がスタート
- 2008年9月・・・コンテンツ強化の上、名称変更
「TBS BooBo BOX」 「TBSオンデマンド」に

- 2009年2月・・・地上波放送中の「ラブシャッフル」「ザ・イロモネア」を「TBSオンデマンド無料見逃しサービス」としてPC向けに広告付き無料配信
- 2009年4月・・・「高校教師」など、「TBSライブラリー番組」の本格配信を開始
- 2010年3月・・・「ヤンキー君とメガネちゃん」「IRIS」など地上波放送中ドラマの見逃し配信開始。
- 2010年4月・・・2009年度通期で単年度黒字化(放送局運営の動画配信サービスとして初の快挙。)
- 2010年6月・・・iPhone向け配信開始
- 2010年9月・・・Android搭載端末向け配信開始。
- 2010年10月・・・「クローン ベイビー」をJ:COMオンデマンドで先行配信開始(連続ドラマを有料で先行配信するのは国内初)
- 2010年10月・・・モバイル向け自社配信サイト「TBSオンデマンド モバイル」開始
- 2011年2月・・・PlayStationStoreで日本で初めて見逃し配信を含む地上波ドラマの配信を開始
- 2011年4月・・・2年連続で通期黒字を達成
- 2011年4月・・・Video On Demand powered byQriocity (“キュリオシティ” ビデオオンデマンド)」で、地上波ドラマの配信サービスを開始
- 2011年8月・・・「インターネットTV上で民放キー局 5社と電通が共同でVODサービスを推進」と発表
- 2011年11月・・・Android向け自社配信サイト「TBSオンデマンドAndroid」開始
- 2011年11月・・・NTTドコモが11月中旬より開始した新サービス「dマーケットVIDEOストア powered by BeeTV」にコンテンツ提供を開始

TBSオンデマンドの目標



「TBSオンデマンド」事業として収益化・黒字化
→2009年度通期で国内初の達成(2010年度も2期連続で達成)

放送局自ら積極的にVOD配信を行い、
テレビ番組ネット視聴のニーズに応える。

「見逃し配信」「地上波の先行配信」など多彩なウィンドウ
テレビ・PC・携帯・スマートフォンなど多彩なデバイスへ配信。

TBSの60年にわたる膨大な番組アーカイブスの有効活用。

権利者の許諾を受けた「正規版」コンテンツの流通促進による、
動画配信市場の健全性確保。

(参考)TBSオンデマンド無料見逃しサービス(トライアル)



「ザ・イロモネア」

2009年2月3日~3月28日
「TBSオンデマンド」で
初の広告付き無料見逃しサービス
2番組 **トライアル** 配信

<http://www.tbs.co.jp/minogashi09/>



金曜ドラマ「ラブ・シャッフル」



配信サイトは
TBSホームページ
テレビドガッチ
Yahoo! JAPAN

TBSオンデマンドの特徴 (コンテンツ)



TBSが持つさまざまなジャンルの番組を「有料」で配信。

エンターテインメント総合編成。多くのジャンルを配信。

地上波ドラマの見逃し配信や、国内初となる地上波先行配信も。

TBSオンデマンドの特徴 (商品・価格)



2012年2月時点で、番組数は700タイトル・3622本。

ジャンル別の内訳: ドラマ1753本、バラエティ333本、音楽113本、スポーツ131本、アニメ386本、映画134本、ドキュメンタリー203本、韓流・華流569本

参考: 2011年2月時点で、487タイトル・2001本(うちドラマ943本)

2010年2月時点で、309タイトル・1153本(うちドラマ420本)

ストリーミング形式、一部ダウンロード形式。中心価格は1話315円。約8日間視聴できる。

お得な全話セット・複数話セットもあり。(約半額に)

TBSオンデマンドの特徴 (多くの配信先)



- 多くの配信事業者と提携(国内最大 49ブランド) 2012年1月現在
- どんどん拡大中!
- TV-VOD(12)、PC(9)、MOBILE(自社配信 + 16)
- SMARTPHONE(自社配信 + 10)

TBSオンデマンド モバイル
<http://tod-m.tbs.co.jp/>

TBSオンデマンド モバイルとは?
 ドラマからアニメ、音楽、映画などなど! 数多くの番組を好きな時に楽しむことができます。TBSのケータイ向け動画配信サービスです。

見逃しても、もう一度見たくても大丈夫!

「TBSオンデマンド」の番組は、下記パートナーサイトでもお楽しみいただけます。

テレビで見る (ISサービス)	JCOMオンデマンド	U-NEXT	DMM TV	TSUTAYA TV	PlayStation Store	Video Unlimited	WUON
パソコンで見る (ISサービス)	goo	Gyo!ストア	DMM.com	テレビドキュン	OCN	ShowTime	

ケータイで見る (ISサービス)

スマートフォンで見る (ISサービス)

テレビドキュン	VideoUnlimited	VIDEO	MOVIE FULLC
MOVIE FULL	BEST HIT	BEST HIT	BEST HIT
LISMO Video Store	ISLAND	MOVIE GATE	MOVIE GATE
MOVIE GATE	MOVIE GATE	MOVIE GATE	MOVIE GATE

TBSオンデマンドの特徴（マルチユース）



TBSペイテレビ事業部で

CS「TBSチャンネル」「TBSニュースバード」・VOD「TBSオンデマンド」
有料メディア3媒体を一括運営して効率化。

CSとVODでコンテンツの企画・制作や、編成・調達の一体化。

地上波・BS・CSなど、TBSグループ全体のコンテンツを、
どのようにウィンドウコントロールしていくかを考え、運営。

TBSオンデマンドの特徴（権利処理）



「放送番組は権利のかたまり」

すべての番組で、オンデマンド配信にあたって、放送とは別に改めて1番組ごとに権利の許諾とりつけ作業をしている。

「実演」「脚本」「原作」「音楽」等、各権利者団体との協議・許諾を経て、団体経由で一括処理。一部に個別権利処理あり。

権利者への配分は、売上げグロス(情報料収入)に対するレベニューシェアモデルが基本。

ゴールデン・プライムタイム番組中心の「見逃し配信」



TBSピクチャーズ(TBS出資製作映画)の配信



映画「秘密」



映画「おくりびと」



TBSライブラリー番組(過去の名作)に強いニーズ



「高校教師」「オレンジデイズ」「風雲！たけし城SP」等、かつてゴールデン・プライムタイムで放送されたライブラリー番組の本格配信。今後も高視聴率・大人気ドラマ・バラエティの配信を予定。



アニメ「けいおん！」シリーズが爆発的な売れ行き



TBSオンデマンドの販売状況



「ドラマ」「アニメ」「映画」「音楽」がジャンル別の売上げTOP4

「見逃しドラマ」の売上が好調(「SPEC」「JIN」「メリは外泊中」など)

ライブラリードラマの中で最も売れたのは「オレンジデイズ」「高校教師」

売上げ比率はTV-VOD(STB)経由が圧倒的 (TV:MOBILE:PC = 7:2:1)

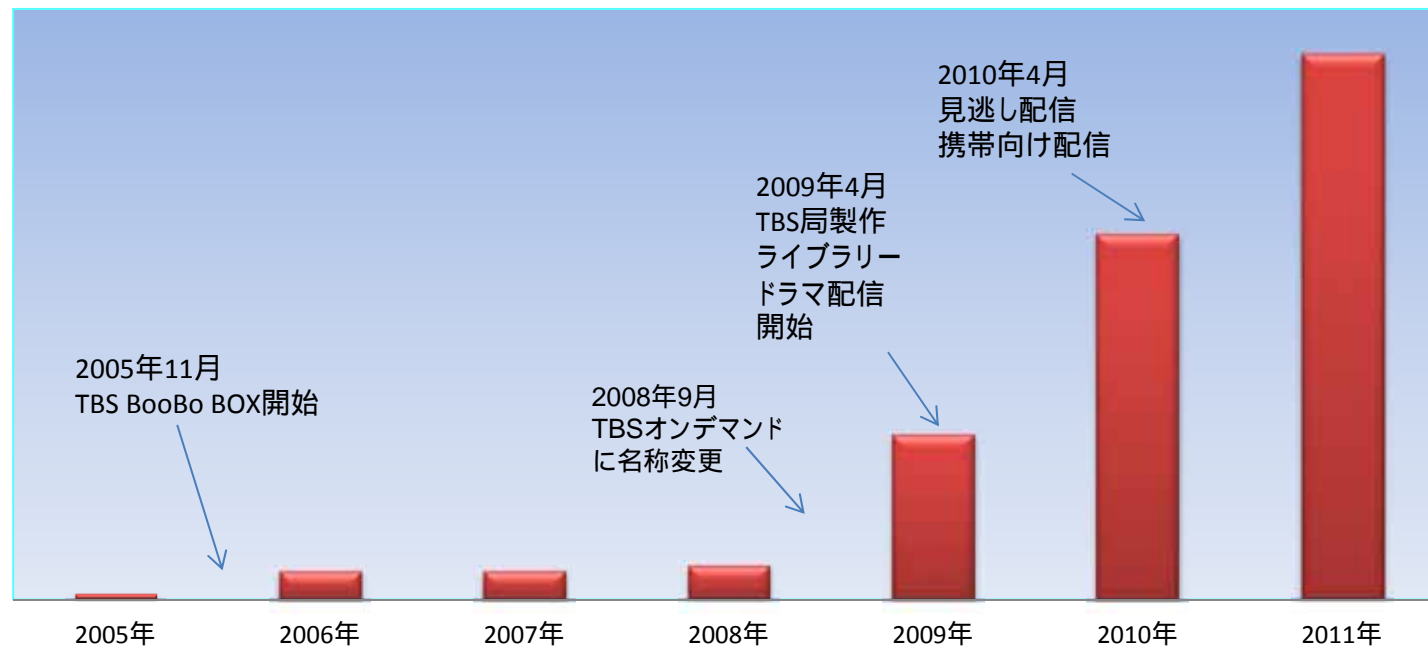
MOBILEでの販売が好調。すでにPCを上回る。

売上推移 / 放送局運営の配信事業で初の通期黒字化達成 (2009年度)



- ・放送局運営の配信事業で初の通期黒字化達成 (2009年度)
- ・早期黒字化達成の要因 地上波コンテンツの権利処理が進み、本格配信開始。
- ・自社配信をせず、自社で技術インフラをもたないBtoB中心の事業構造も奏功。

TBSオンデマンド売上推移 (年度累計) 2011年度は予測値



今後「TBSオンデマンド」に期待されるコンテンツ・ターゲットは？

「TBSライブラリー番組」について、ドラマジャンル以外の配信は？
(バラエティ、秀作ドキュメンタリー、音楽番組等)

古い作品の権利処理データの収集、洗い出し

オリジナル番組制作など、さらなるコンテンツ強化

スマートフォン (iPhone,iPad,Android等) やスマートTV 新たなデバイスへの対応をより強化。

ストリーミング配信のみならず、ダウンロード配信やEST (Electronic Sell-Through ダウンロード売り切り販売) への本格対応。

ダビング・エンコードコスト等、ランニングコストの低減 →
エンコードファイル形式の業界標準化はいつ？

TBSオンデマンド 今後の課題と取り組み



見逃し番組配信への対応をさらに強化。

配信パートナーのさらなる拡大。

海外配信の拡大検討。(cf.2011年末地上波TBS放送 シンガポール・日本共同制作ドラマ「ムーンケーキ」を2012年1月1日より海外配信開始)



今後これらの課題に取り組み、
より魅力的な「TBSオンデマンド」へ

TBSの「民放VOD」への取り組み



- ・「民放VOD」 民放キー局 5 社と電通が共同で取り組む新しいVODサービス。
- ・インターネットTV上のサービス。スマートフォン等、マルチデバイスにも広げる。
- ・テレビの価値の向上、テレビ番組の視聴層拡大が主目的。
- ・2012年春開始予定。ブランド名等、詳細は6社で調整中。
- ・「TBSオンデマンド」は配信可能な全てのコンテンツを民放VODに提供予定。

ご参考(2011年8月3日付共同リリース)

民放キー局 5 社と電通が共同でVODサービスを推進

日本テレビ放送網・テレビ朝日・TBSテレビ・テレビ東京・フジテレビジョン(以下、民放キー局 5社)と電通は、今後普及が予想されるインターネットTV¹ 上において、民放各社が主体となった有料課金型のVOD(ビデオ・オン・デマンド)サービスを共同で推進していくことに基本合意しました。

テレビ受像機の機能が多様化する中、民放キー局5社と電通は、地上波放送でのリアルタイム視聴² を促進し、番組視聴時間を拡大する民放独自のVODサービス(以下、民放VOD)の提供を、2012年度から2014年度を本格運用に向けた準備期間として位置付け、その導入を計画³ しています。

この民放VODは、テレビの価値を向上させるという共通認識のもと、視聴者により多くのテレビ番組への視聴機会を提供することで、テレビ番組の視聴者層を拡大し、テレビ番組のファンを増やそうとするものです。

既存のインターネットTV上でのVODサービスは、VODタイトルをメニュー等から検索するユーザーインターフェイスが主流であるのに対し、民放VODは、簡単で誰でも使いやすいユーザーインターフェイスを開発し提供することを検討しています。

なお、動画視聴の可能なデバイスの普及や、生活者のライフスタイルの多様化に対応するため、この民放VODを、インターネットTVだけではなく、スマートフォン・タブレット端末などマルチデバイスにも広げ、リアルタイム視聴に繋げる流れを作り出すことにより、テレビの価値の最大化を図っていきます。

- 1: インターネットを通じて動画視聴が可能なテレビ受像機
- 2: 現在放送中の番組をライブで視聴すること
- 3: サービス開始時期は6社で検討中

「News i」等、TBSニュースコンテンツ動画配信の歩み



1999年:他局に先駆け、民放初の無料動画ニュースサイト「TBS News i」開始(自社サイト)。

2001年:Yahoo!BBの動画ニュースとしても配信開始。その後複数ポータルでの配信も開始。

2003年:有料モバイルサイト「TBSニュース&ライブ」開始。

2003年:News iのJNN配信局(TBS,MBS,HBC,SBS,SBC,RCC,RKB)による外販ハンドリング会議。JNN各局エリア展開。

2009年9月:YouTube上にTBSニュースオフィシャルチャンネル開設 News iコンテンツを配信開始。

2010年10月:TBSニュースFacebookページ開設 News iコンテンツを配信開始。

2010年10月:NTTドコモ社の新サービス「SPモード」向けにNews iコンテンツを配信開始。

2011年3月:東日本大震災時緊急対応としてCS「TBSニュースバード」のUstream・YouTube上での同時再送信。

まとめ



インターネットインフラの整備、権利処理の円滑化により、「TBS オンデマンド」の例のように、この3年間で地上波コンテンツの配信が質・量ともに飛躍的に向上。

放送局は、今後も、インターネットやデジタル技術の発展を利用し、自社の保有する動画コンテンツを死蔵せず、積極的に活用していく必要がある。

同時に、「ネット上での番組の円滑な利用(コンテンツ流通)」と「権利者の保護」「利益の適正な配分」を両立する新たなルールと運用が求められている。

「TBS オンデマンド」は実務を通じて「エンターテインメントコンテンツの流通促進」「適切な権利処理」「利益の適正な配分」を日々実行している。

「News i」等TBSのニュースコンテンツ群も、インターネットやデジタル技術の発展を活用し、さらに先進的かつ、迅速・正確・幅広い情報発信に努める。

今後とも、TBSは実務を通じて「コンテンツ流通の良き実例」を目指し、努力してまいります。

ご清聴ありがとうございました。